

再開へ試運転始まる

避難区域、初の列車運行

竜田地区には檜葉町役場があり、町は5月下旬にも帰町時期を判断する見通し。同区間の正式な運転再開時期についてJRは「檜葉町の帰町時期判断に合わせ再開する」と説明しており、6月1日にも運転再開する方向で労働組合や地元

の町などと調整している。初の試運転は10日午前、4両編成の列車が広野駅を出発。通常よりも速度を落

とし、竜田駅までの2駅間を約25分かけて走行した。JR水戸支社によると、この日は3往復で試運転を実施。踏切には社員が待機し、

信号や踏切の作動や走行の安全性を確認したほか、車内では原子力規制庁の職員が線量を測定した。

竜田駅近くの自宅に一時帰宅していた檜葉町の菜花久美子さん(72)は「電車が町に戻ってきてくれてうれしい。これからの住民帰還

信号や踏切の作動や走行の安全性を確認したほか、車内では原子力規制庁の職員が線量を測定した。

竜田駅近くの自宅に一時帰宅していた檜葉町の菜花久美子さん(72)は「電車が町に戻ってきてくれてうれしい。これからの住民帰還につながる」と期待を示した。

原子力規制庁によると、
10日午後3時20分現在の竜
田駅の放射線量は毎時0・
22マイクロ、木戸駅は毎時0・
17マイクロだった。JR水戸支
社によると、試運転は今後
数十回行う予定。

常磐線の竜田―原ノ町
(南相馬市) 駅間は、再開
の見通しが立っていない。

動労水戸が抗議行動

JR常磐線広野―竜田駅
間再開に反対している国鉄
水戸動力車労働組合（動労
水戸）は10日、試運転開始
に合わせ、JRいわき駅前
周辺で抗議行動をした。

動労水戸によると約100人が参加した。「労働者、利用者を原発の不測の事故や被ばくの危険にさらすことを認めない」などアピールしたほか、再開に向けた乗務員訓練に対し抗議の声を上げた。

